

事例2 異なる立場・時代の史料を比較して歴史的事象を考察させる 指導と評価の工夫

～ 4つの史料による承久の乱の考察～

1 ねらい

史料を用いた授業は、史料の文章が生徒にとっては難解であることなどから、教師も敬遠しがちではないだろうか。しかし、歴史は史料に基づいて叙述されているのであり、史料は歴史を学ぶ入口の一つであるといえる。

史料は、同じできごとでも、記した立場によって主張が異なっており、後世に記された史料であれば、同時代の史料とは異なった評価をしている場合もある。異なる立場による複数の史料を比較・検討することで、できごとの真相に少しでも迫ることができ、歴史の面白さを生徒が感じることができるとともに、多様な視点から歴史的事象を考察する力を育成できると考えた。

この事例では、承久の乱について記した複数の史料を取り上げた。承久の乱については、当事者（朝廷側と幕府側）双方の記した史料が残っており、後の時代にも異なる立場からの再評価が行われている。つまり、同時代の史料としては、乱の発端になった『北条義時追討令』と、これに対し鎌倉幕府がどのような対応をしたかを記録した『吾妻鏡』が残されており、再び朝廷と幕府が争った南北朝時代には、『神皇正統記』と『梅松論』のなかでそれぞれ承久の乱が論じられている。このように、「幕府」と「朝廷」、「事件の当事者」と「後世の歴史家達」という、異なる立場による史料が残されており、同じ歴史的事象について多様な視点から学ぶ題材として、適切なテーマであると考えた。

なお、史料は、生徒にわかりやすいように、かなり大胆に意識したものを用意したほか、ワークシートを用いて、生徒が積極的に授業に取り組めるように配慮した。

2 指導計画・評価計画

(1) 単元名 鎌倉幕府の成立と発展

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
鎌倉幕府の成立から執権政治が確立するまでの経過に関心をもち、課題意識を高めて意欲的に追究しようとしている。	鎌倉幕府の成立と執権政治の確立について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察している。	鎌倉幕府の成立や執権政治の確立の過程を追究するために、史料を適切に活用し、自分の意見を表現している。	鎌倉幕府の成立から執権政治が確立するまでの過程について、多面的・多角的に理解し、基本的な知識を身に付けている。

(3) 単元の指導計画と事例の位置づけ

鎌倉幕府の成立と発展（5時間）

- 源平の争乱と鎌倉幕府の成立（1時間）
- 鎌倉幕府の組織・将軍と御家人（1時間）
- 承久の乱（2時間＝本事例）
- 執権政治の確立と武士の生活（1時間）

(4)本事例の指導略案(2時間)

1時間目

段階	時間	学習内容	学習活動 (使用資料)	指導上の留意点	評価計画 [評価方法]
導入	10分	・承久の乱の歴史的背景	・平安末期から承久の乱にかけての主要な事件を確認する。 [ワークシートの課題1]	・朝廷、将軍、北条氏の関係などに注目させる。	
展開	25分	・史料に基づき、承久の乱の経過をたどる。 ・承久の乱の当事者双方の史料による検討	・『北条義時追討令』について、教師の説明を聞き、史料の性格を理解する。 ・『吾妻鏡』について、教師の説明を聞き、史料の性格を理解する。 ・史料1・史料2それぞれを音読し内容を理解する。 ・それぞれの史料の重要箇所をまとめる。 [ワークシートの課題2]	・『北条義時追討令』が、政治のしくみを根拠に書かれていることに注目させる。 ・『吾妻鏡』は鎌倉幕府の公式記録と考えられることと、政子の演説の内容は御家人の情に訴えたものであることを確認する。	【資料活用の技能・表現】 ・史料1・史料2それぞれの内容を正しく読み取っている。 [発問・ワークシート]
	15分	・承久の乱の結末	・承久の乱の結果としてとられた措置やその後の政治への影響をまとめる。	・朝廷に対し幕府が優位に立ったことや、幕府内で執権の地位が向上したことを確認する。	

2時間目

段階	時間	学習内容	学習活動 (使用資料)	指導上の留意点	評価計画 [評価方法]
展開	15分	・朝廷側と幕府側の主張の比較・検討	・朝廷側と幕府側のどちらの主張に説得力があるか、一方を選択してその根拠を明確に書く。 [ワークシートの課題3] ・双方の立場の意見を交換し、自分の考えを検証する。 ・どちらの主張に説得力があるか、最終的な判断をする。	・根拠を明確にして考えるよう指導する。 ・他者の意見に耳を傾け、自分の意見との相違に注目して考えさせる。	【思考・判断】 ・根拠をもとに考察し、自分の意見をまとめている。 [発問・ワークシート]

展 開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・後世の歴史家たちの見解について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『神皇正統記』について、教師の説明を聞き、史料の性格を理解する。 ・『梅松論』について教師の説明を聞き、史料の性格を理解する。 ・史料3・史料4それぞれを音読し内容を理解する。 ・各史料の重要箇所を抜き出し、史料の内容がワークシートの課題3で予想した内容と一致するものであったか、判断する。 [ワークシートの課題4] 	<ul style="list-style-type: none"> ・史料がどのような時代背景のもと、どのような人によって書かれたかについて解説する。 ・双方の主張に大きな差がないことに注目させる。 	<p>【資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史料3・史料4それぞれの史料を正しく読み取って、自分の意見をまとめている。 [ワークシート]
	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・史料を読んだ感想のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、史料を読むことの楽しさ、難しさについての感想を記入する。 [ワークシートの課題5] 	<ul style="list-style-type: none"> ・立場によって歴史の見方や史料の記述が変わることなどを説明し、多面的な視点から歴史的事象を見る必要性を説く。 	

3 ワークシート

承久の乱

後鳥羽上皇vs鎌倉幕府、正義は我にあり？

課題1 鎌倉幕府開設～承久の乱までの経緯

年号	主な出来事
1185	(1) が後白河法皇から日本国総守護・総地頭に任命される。
(2)	後白河法皇死去。(1) が征夷大将軍に任命される。
1198	後鳥羽上皇、院政を開始。
1199	頼朝死去。(3) が2代将軍に。有力御家人の合議制開始。
1202	後鳥羽上皇、(4) をおいて院の軍事力を強化。 他、天皇家の荘園を整理し、経済力も高める。和歌所設置。
1203	2代将軍を幽閉し、(5) を3代将軍に。 このころから、(6) がライバルの有力御家人を次々に倒す。
1219	(5) 暗殺(頼朝の子孫は断絶) 「皇族を将軍に迎えたい」という幕府からの申し出を、後鳥羽上皇は拒否。
1221	ついに朝廷と幕府の武力衝突に 承久の乱

課題2 承久の乱、朝廷側と幕府側、当事者それぞれの主張は？

朝廷側の主張 史料 = 『北条義時追討令』	「尼將軍」(7)の演説 史料 = 『吾妻鏡』
--------------------------	----------------------------

結果は、朝廷側の敗北だけど...

課題3 承久の乱、朝廷側と幕府側、どちらの主張に説得力があるか？

私は()側の主張に説得力があると思う！

その理由は _____

課題4 私たちはこう考えた！後世の歴史家たちから見た「承久の乱」

鎌倉幕府滅亡後、再び幕府と朝廷が争った(8)の当事者達は、承久の乱をどのように見たのか？

南朝(朝廷 = 後醍醐天皇)側の立場 史料 = 『神皇正統記』	北朝(幕府 = 足利尊氏)側の立場 史料 = 『梅松論』
この考えに 賛成 反対	この考えに 賛成 反対

課題5 史料から歴史を読む、今回の授業について、どのようなことを感じましたか？

4 史料

史料1：『北条義時追討令』（承久3年 = 1221年5月15日）[朝廷側]

このごろ幕府の命令であると称して、天下の政治を混乱させている。今の幕府には将軍がいると言ってもわずか3歳の幼児である。にもかかわらず、義時は自らの言葉を将軍家の命令であるかのように語り、都と言わず田舎と言わず勝手な命令を発している。そのみならず、自分の権力を見せびらかし、天皇の定めた法令を無視しているかのようなのである。これは政治のあり方而言えば、朝廷に対する謀反に他ならない。さっそく全国に命令を出して、義時を追討しなさい。あわせて諸国の守護や、各荘園の地頭で、何か申し出たいことのあるものは、院の庁まで来て、院に申し上げなさい。事情に応じて話を聞き、必要な決定を下すこととする。

[教師の説明の概要] 源頼朝直系の子孫が途絶えたことで、鎌倉幕府も動揺しており、朝廷は勢力回復の好機と考え、このような命令書を出した。

史料2：『吾妻鏡』より「尼將軍」(承久3年 = 1221同年5月19日) [幕府側]

北条政子は御簾(身分の高い女性が姿を隠すためのすだれ)の前に家来達を集め、側近である安達景盛を通じて伝えた。「皆さん、心を一つにしてお聞きなさい。これが私の最後の言葉です。亡くなった頼朝様は朝廷に謀反を起こした平氏を討ち滅ぼし、鎌倉幕府をうち立てられました。その後、あなた達御家人が受けたご恩は、朝廷での位のことといい、いただいた領地のことといい、どんな山よりも高く、どんな海よりも深いものだったはずですが。それなのに、あなた達は頼朝様に対する感謝の気持ちが浅くてもよいのですか？さらに今、北条氏は逆臣である、と非難され、

およそ正しいものとはいえない北条義時追討令がだされました。自分のしたことが後の時代に非難されたくないと思う人は、院の側についた藤原秀康や三浦胤義らを討ち取って、頼朝様から頼家・実朝とつづいた3人の将軍達の残してくれた領地を保てるようにしなさい。それとも、今から院の味方に付きたいというのであれば、今この場で申し出、私を切ってから行きなさい。」この言葉を聞いて集まった武士達はみんなその命令を聞き入れ、涙を流して返事をする事さえ出来なかった。ただ、命をなげうっても頼朝様以来の御恩に応えなければいけないと思ったのである。

注：文中「逆臣」の箇所については、原史料の「逆臣の讒」を「(藤原秀康や三浦胤義など、幕府を陥れようとしている)逆臣たちの讒言」とする例(山川出版『詳説日本史資料集』)もあるが、ここでは「(北条氏が朝廷に対して)逆臣であるというそり」とする解釈に従って資料を作成した。

[教師の説明の概要] 鎌倉時代の歴史書。1180年の源頼政挙兵から1266年に宗尊親王が京都に送還する(惟康親王が将軍になる)までの、87年にわたる幕府の歴史を記す。鎌倉幕府によって、多くの日記・古文書文学作品などを材料に、変体漢文で日記体に編纂された。

史料3：『神皇正統記』 [朝廷側]

(承久の乱で処罰を受けた順徳天皇の皇太子が、即位しないまま死去したことを受けて)

幕府のおかげで身分の高い人も庶民も安心して暮らすことができ、皆その徳をしたって従ったのであるから、実朝の代になっても幕府にそむくものがあつたとは聞いていない。その徳を超える政治が出来なければ、どうして幕府を倒すことが出来るだろうか。たとえ戦に勝って朝廷が権力を握ったとしても、人々の暮らしを安定させることが出来なければ、結局天も認めてくれはしないだろう。また、天に認められた王者が戦をするときは、罪のある人を討ち滅ぼすもので、非難されるいわれのない人とは戦わないものである。頼朝が高い地位に就き、守護の職を得たのは、すべて後白河法皇の決めたことによるものである。頼朝が勝手に決めたとは言えない。頼朝の死後、政子が政治のことを心配し、義時が長く幕府の政治を指導しても、人望にそむかなかつたのであれば、これもまた落ち度があつたとはいえない。それを一通りの理由をつけて追討しようとするのは、上皇の失敗であると言わざるをえない。朝廷に謀反を起こした敵を追討するのだ、と言えるほどのものではない。従って、戦いをするべき時ではなく、天の道理もゆるすものではなかつたのである。

[教師の説明の概要] 南北朝時代に北畠親房が著した歴史書。1339年完成。神代から後醍醐天皇が没して後村上天皇までの歴代天皇の即位・改元・享年などを記し、皇位継承の経緯を述べる。特に後醍醐天皇に関わる部分に力が入れられており、南朝の正統性を独自の政道思想によって主張する。天皇の超越的性格を三種の神器の徳とあわせて説き、神国思想を打ち出したことは後世に大きな影響を与えた。

史料4：『梅松論』より「三 承久の乱」 [幕府側]

5月21日、軍勢が出発するに当たり、北条泰時が父義時に次のようなことを聞いた。「日本の国はすべて天皇のものです。日本や中国で天皇・皇帝の命令に背いて、無事であつたものはありません。平清盛は後白河法皇をしのぐ権勢を手に入れたけれど、結局平家は法皇の命令を受けた頼朝様に討ち滅ぼされることとなりました。その結果、頼朝様は出世し、多くの領地を手に入れ、我が北条家も祖父時政が功績を認められたのではないですか。今、私たちが朝廷の命令に背き、そのことで朝廷から非難されるのはとても残念です。やっぱり降参するべきではないですか。」

しばらく考え、義時は次のように言った。「確かにその通りかもしれない。しかし、それは天皇の政治が正しく行われている時のことである。最近、朝廷の政治のあり方を見ているとそうは思

えない。例えば天皇が朝に決められたことが夕方には訂正され、一つの国に何人もの国主を任命してしまうために、争いが起きて各地で治安が乱れてしまっている。それでも大きな混乱が起きていないのは、たぶん幕府がうまく機能しているからである。天下を平和に治めるか、戦乱を起こすかは、水と火との争いのようなもので、そのときどきでどちらの勢いが勝っているか、ということなのだ。今回のように、政治の乱れた中で謀反の疑いをかけられ、いわれのない追討の命令を受けた場合には、世の中の安定のために戦うべきではないか。自分が正しいかどうか、戦いの勝敗は、この世を支配している天の道理の判断にまかせよう。もし我々が勝ったなら、天皇の位は院の子孫に継いでいただければよいだろう。また、もし院が我々の真意を理解し、使者を派遣し出迎えてくれたなら、そのときは武器を捨てて院のもとに参上しよう。」

こうして幕府軍19万騎が東海道・東山道・北陸道から進軍すると、京都はたちまち占領され、逆臣達をことごとく討ち取り、後鳥羽上皇には隠岐国に遷^{うつ}っていただいた。

[教師の説明の概要] 室町時代の歴史書。1349年頃の成立。作者は不詳だが、足利尊氏側近の武将と言われ、北条政権の時代から南北朝の動乱を経て足利氏が天下を制圧するまでの歴史を扱っている。『大鏡』のような戯曲形式をとり、足利(北朝)方の立場からの史観を示し、南朝側から同時代を描いた『太平記』とは対照的。

5 ワークシートの記入内容と評価

当日の出席者19名分について、ワークシートの記入内容の一部、および、判断基準と評価結果を以下に示す。

ワークシートの課題2：承久の乱、朝廷側と幕府側、当事者それぞれの主張は？	
承久の乱関連史料である、『北条義時追討令』(史料1)、『吾妻鏡』(史料2)それぞれの内容について、適切に読み取りができていますか。 [ワークシート記入内容については省略]	
評価規準 【資料活用の技能・表現】・史料1・史料2それぞれの内容を正しく読み取っている。	
判断基準	A 史料から重要な箇所を抜き出し、自分の言葉で要約している。 ----- B 史料から重要な箇所を抜き出している。
評価結果	史料から重要箇所を抜き書きすることについては概ね良好であり、ほとんどの生徒が評価Bのレベルはクリアしていたが、内容を要約し自分の言葉で説明できたのは、一部の生徒だけだった。

ワークシートの課題3 承久の乱、朝廷側と幕府側、どちらの主張に説得力があるか？	
1時間目に扱った『北条義時追討令』と『吾妻鏡』の内容を比較・検討させ、朝廷側と幕府側のどちらの主張に説得力があると思うか、判断するための根拠をあげて考えさせた。 幕府側と朝廷側のどちらを是としてもよいが、2つの史料を比較しての判断であるから、史料以外にその根拠を求めるのは望ましくない。 そこで、判断基準は、「根拠として史料を用いているか」と、「自分の意見を述べているか」の2点を含めるのが適当と考えた。	
生徒がワークシートに記入した内容	
幕府側(8名)	
史料に基づいた意見 ・将軍と御家人の関係を今までどおりにしようとしているから。	

- ・政子の言葉が心に響いた。しっかりした人だと思った。
- ・謀反の疑いをかけられた借りはきちんと返すべきだから。
- ・御家人は頼朝の御恩に報いるべきであり、政子の演説には正当性がある。
- ・わずか3歳の將軍では義時のような人がいなければ幕府は維持できない。朝廷でもそのようなこと[注：摂関政治のことか?]をやっている。

朝廷側(10名)

史料に基づいた意見

- ・政子の意見は人の心に訴えかけるものではあるが、朝廷側は立場上権威を持っている。義時に発言力があるのは朝廷にとっては好ましくない。
- ・幕府は義時を陥れた「逆臣の讒」について(潔白であることを)証明できるのか?できないから情に訴えて御家人を動かしたのでは?
- ・勝手な政治をしている義時を追討するのは正しいと思う。
- ・何の権利もない義時が、將軍に代わって勝手な命令をするのは少しおかしいと思った。
- ・どちらもどっちと思うので、身分が上の人の主張を優先すべき。
- ・義時は出しゃばりすぎ。政子の話はいい話だけれどわざとらしすぎる。

史料を根拠としない意見

- ・北条氏は権力を握るために2代將軍や御家人を殺している。
- ・頼朝以前は朝廷による政治が行われている。朝廷中心に戻そうとするのは当然。幕府は院政に従うべき。

双方とも説得力はない(1名)

史料に基づいた意見

- ・どちらも権力をつかみたい意図が丸出し。北条氏の地位が確立しているのに朝廷は今更なことを言っているようにしか思えない。政子もいいことを言っていると思うけど、結局は北条氏の地位を守ることが目的。

評価規準 【思考・判断】・根拠をもとに考察し、自分の意見をまとめている。

判断基準	A	史料の内容を根拠として用い、自分の考えを明確に述べている。
	B	史料の内容を根拠として用いていないが、自分の考えを明確に述べている。あるいは、史料の内容を根拠として用いているが、自分の考えを明確に述べていない。

史料に根拠を求めた、適切な形で意見を提示している解答が大半であった。

評価 評価Aの例

幕府側に説得力があるとする意見

- ・御家人は頼朝の御恩に報いるべきであり、政子の演説には正統性がある。
- ・(朝廷の追討令の内容から)わずか3歳の將軍では義時のような人がいなければ幕府は維持できない。朝廷でもそのようなこと(摂関政治)をやっているのだから、幕府を非難すべきではない。

朝廷側に説得力があるとする意見

- ・政子の意見は人の心に訴えかけるものではあるが、朝廷側は立場上権威を持っている。義時に発言力があるのは朝廷にとっては好ましくない。
- ・幕府は義時を陥れた「逆臣の讒」について(潔白であることを)証明できるのか?できないから(政子は)情に訴えて御家人を動かしたのでは?

双方に説得力がないとする意見

- ・どちらも権力をつかみたい意図が丸出し。北条氏の地位が確立しているのに朝廷は今更なことを言っているようにしか思えない。政子もいいことを言っていると思うけど、結局は北条氏の地位を守ることが目的。[注:「どちらに説得力があるか」を明示していないが、史料の内容を用いて、自分の考えを明確に述べていたので、評価Aとした。]

評価Bの例

朝廷側に説得力があるとする意見

- ・北条氏は権力を握るために2代将軍や御家人を殺しているから。

ワークシートの課題4 私たちはこう考えた！後世の歴史家たちから見た「承久の乱」

『神皇正統記』と『梅松論』を活用する作業では、本事例の前半で2つの資料を扱って比較・検討を行った成果を試すため、できるだけ生徒に自由に行わせることにし、行うべき作業については、「史料の内容を要約、もしくは重要箇所を抜き出し」、「それに対して賛成か反対か、自分の意見を明示する」の2点のみを指示するにとどめた。ここでは、なぜ自分は賛成（反対）と判断したのか、その根拠を史料に基づいて述べる必要があると考えた。

生徒がワークシートに記入した内容

『神皇正統記』史料に対する意見：賛成14名、中立4名、反対1名

- ・「上皇の失敗」と言い切っているところがすっきりしている。「天の道理」に基づいて考えれば、勝った幕府寄りに書かなければならないか。
- ・上皇の挙兵を失敗とは思わないが、戦うべきではなかったというところには頷ける。

『梅松論』史料に対する意見：賛成11名、中立2名、反対6名

- ・天皇の命令は絶対だが、政治が正しくなければ戦いもやむを得ない。
- ・泰時の考えももっともと思うが、義時の主張するように謀反の疑いをかけられてはそのままにしておけないし、朝廷の失政の始末をしているのは確かに幕府と思うので、賛成。
- ・「幕府のおかげで秩序が保てている」は言い過ぎでは。泰時の考え方には賛成。
- ・朝廷の政治が混乱しているのは納得いくが、追討の命令を受けたからといって、「世の中の安定のために戦う」とするのは納得いかない。
- ・幕府が「政治の乱れをただすために戦う」とする主張には賛成できない。

評価規準 【資料活用の技能・表現】・史料を正しく読み取って、自分の意見をまとめている。

判断基準	A	史料の内容を十分に理解し、その内容に基づいた自分の考えを、明確な根拠を示して表現している。
	B	史料の内容を把握しているが、自分の考えの根拠を明確に示していない。あるいは、史料を根拠として十分に活用していない。

評価結果 評価Aの例

- ・『神皇正統記』に賛成：(史料の重要箇所を抜粋し、)「上皇の失敗」と言い切っているところがすっきりしている。「天の道理」に基づいて考えれば、勝った幕府よりに書かなければならないか。
- ・『神皇正統記』に対して中立：(史料の重要箇所を要約して)納得のいく内容であり、正しいことが書いてあるように見える。南朝側の人を書いたものであるのに、幕府の正統性を訴えているのが不思議に思えた。
- ・『梅松論』に賛成：(史料の重要箇所を箇条書きにして)泰時の考えももっともと思うが、義時の主張するように謀反の疑いをかけられてはそのままにしておけないし、朝廷の失政の始末をしているのは確かに幕府と思うので、賛成。

評価Bの例

- ・『神皇正統記』に賛成：一通りの理由をつけて追討しようとするのは、上皇の失敗であると言わざるを得ない。このことに賛成だから。[実質的に史料の抜粋のみ]
- ・『神皇正統記』に賛成：幕府のおかげで身分の高い人も庶民も安心して暮らしており、誰も幕府に背く者はいなかった。だから理由をつけて義時を追討しようとしたのは失敗だと思う。[実質的に史料の抜粋のみ]
- ・『梅松論』に賛成：朝廷の政治が乱れているときに治安を守るのは、幕府の役割だから。[実質的に史料の抜粋のみ]
- ・『梅松論』に反対：政治の乱れた中で（覚えのない）追討の命令を受けたら、世の中の安定のために戦うべきだと言っているから。[実質的に史料の抜粋のみ]

評価Cの例

- ・『神皇正統記』に反対：順徳天皇の皇太子が即位できなくて、その有力な人によって国の政治を行ってきたが…。[事実誤認 資料の内容に基づかない意見]

結果として、評価Bと判断される意見が多かったが、「理由を明記するように」という指示が徹底しなかったことと、「以上のことに私も納得できたから」とする場合は自分の意見を表現したとは認めなかったことが理由と考えられる。

7 まとめ

(1)生徒の感想から

ワークシートに記された生徒の感想を以下に示す。なお、印の2つは『神皇正統記』と『梅松論』を比較したもので、ワークシートの課題4をさらに発展させた内容であり、すばらしい。

ワークシートの課題5 史料から歴史を読む、今回の授業について、どのようなことを感じましたか？

- ・歴史を振り返ると、立場の対立しているものどうし、立場によって違う意見があることを学んだ。
- ・このような授業は違う立場に立ってものを考えられるので、また機会があったらやってみたい。
- ・自分の立場で歴史を書くのだと思っていたが、（注：北畠親房が後鳥羽上皇を批判しているように）全部の人がそうではないことが分かっておもしろいと思った。
- 『神皇正統記』の内容が意外でおもしろかった。南朝・北朝とも天の道理を重視しており、根本は一緒だと思った。
- 『神皇正統記』と『梅松論』の双方で「天」の思想をもとに、互いに同意見なのには驚いた。
- ・『神皇正統記』は説得力があった。
- ・どの主張も自己中心的で大人気ない。やはり戦いはよくない。
- ・時代の流れがわかりやすかった。
- ・時代が前後し、混乱してしまった。
- ・史料の中身が難しかった。
- ・史料から学ぶと、嘘がないように感じた。
- ・史料の出典を調べ、歴史に興味を持った。史料を残した人にも共感できた。
- ・その時代の人々の考え方に触れることができた。もっといろんな時代の史料を読んでみたい。
- ・普通の授業ではみられない歴史の側面がみられ、おもしろかった。
- ・普通ではただ通りすぎてしまう歴史上の出来事も、史料を使って勉強すると、史料を残した人の考えなどが分かっておもしろいところもあった。
- ・昔の人は自分の言葉や行動に責任を持ち、懸命に生きていると思った。
- ・「4」の項目で何を書けばいいのかももう少し詳しく説明して欲しかった。

全体的には、「史料の出典を調べ、歴史に興味を持った。史料を残した人にも共感できた」、「普段の授業ではみられない歴史の側面がみられ、おもしろかった。」など、肯定的、積極的な感想が多かった。

特に、立場を異にする歴史家の意見を比較・検討したことに対しては、「このような授業は違う立場に立ってものを考えられるので、また機会があったらやってみたい。」、「自分の立場で歴史を書くのだと思っていたが、（北畠親房が後鳥羽上皇を批判しているように）全部の人がそうではないことが分かっておもしろいと思った。」などの感想があった。

また、「史料から学ぶと、嘘がないように感じた。」と答えた生徒もいるように、史料は歴史を学ぶ上で重要な役割を担っていることを、改めて認識することができたのではないかと考える。

しかし、史料は、生徒にわかりやすいように、かなり大胆に意識したものを用意したにもかかわらず、「史料の中身が難しかった。」という感想や、「（異なる立場、異なる時代の視点から見た歴史を扱ったので）時代が前後し、混乱してしまった。」という感想もみられた。

(2)成果

生徒の感想から判断して、今回意図した、異なる立場による複数の史料を用いて、歴史を多様な視点から考察させるという授業のねらいは、生徒には肯定的に受け止められたといえる。また、できごとの真相に少しでも迫ることができ、歴史の面白さを感じたことなどから、史料への親しみが増し、歴史に対する興味・関心が高まった生徒が多かったといえる。

また、史料に根拠を求めた、適切な形で意見を提示することができるようになったことから、歴史的事象について多様な視点から考える力は、ある程度身に付いてきたと考えられる。

(3)今後の課題

複数の史料を比較し、どちらに説得力があるかを考察するにあたっては、なぜ主張の違いが生じているのか、それはどのような立場や考え方に基いているのかなどの背景を押さえ、生徒が、単なる印象評価ではなく、史料の内容や歴史的な事実に基づいて判断するよう留意する必要がある。

評価については、教師の指示が徹底しなかった場合には、結果として、評価Bと判断される意見（解答）が多かった。教師は、生徒の学習状況をよく把握し、適切な指導・支援を継続的・反復的に繰り返す必要がある。その際、「史料の中身が難しかった。」「時代が前後し、混乱してしまった。」などの感想をもった、基礎・基本が定着していない生徒への配慮が必要である。

多様な視点から歴史的事象を考察する力を確実に身に付けさせるには、生徒が一度身に付けた歴史的な見方や考え方をもとに考察する機会を設定することが有効であると考えられる。従って、他の単元についても、適切な教材を開発し、複数の史料を読み取って考察を深めさせる指導を繰り返して実施することが大切である。